

(6) 但東地域

ア 地域の概要

- (ア) 但東地域は、本市の東部、京都府との府県境に位置し、国道426号と国道482号を基軸とした交通体系が形成されています。
- (イ) 出石川の源流部から上流部にあたり、河川と森林が調和した良好な自然景観が形成されています。
- (ウ) 出合周辺に商業施設、公共施設等の集積が見られます。
- (エ) 人口減少が進んでおり、市営住宅や空き家等を活用した定住対策を進めています。
- (オ) 民間路線バス、市営バス(イナカー)、地域主体交通(チクタク)により地域住民の交通手段を維持しています。
- (カ) 谷筋に広がる優良農地では、稲作のほか、ピーマンに代表される畑作も行われています。
- (キ) 東井義雄記念館や日本・モンゴル民族博物館等の施設が立地しているほか、たんとう花公園では毎年チューリップまつりが開催されるなど、観光協会を中心とした集客事業が展開されています。
- (ク) シルク温泉やまびこ、たんたん温泉福寿の湯の2つの温泉施設があるほか、農家民宿も見られます。また、都市部の中学生を受け入れ、農業体験等を通して交流する教育民泊も行われています。

イ 地域の課題

- (ア) 住民の足となる公共交通の維持、利用促進に努め、高齢者等が移動しやすい環境を整えることで、利便性の高い住環境の形成を図る必要があります。
- (イ) 市営住宅や空き家等を積極的に活用し、定住対策、U・J・Iターンの受け入れを継続的に進めていく必要があります。
- (ウ) 里山や田畑の美しい景観、良好な自然環境、静かな地域環境を維持していく必要があります。
- (エ) 温泉等の集客施設を活用し、地域の活性化を図る必要があります。
- (オ) 防災面、利便性の面からは、山間部の条件不利を解消する対策を進める必要があります。



ウ 地域づくりの将来像と目標

(ア) 地域づくりの将来像

「自然に囲まれた環境を活かした地域づくり」

(イ) 地域づくりの目標

- ① 自然の豊かさを活かした地域の魅力向上
- ② 市民生活を支える公共交通の維持と利用促進
- ③ 歴史、伝統を活かした地域の活性化
- ④ 安全で安心して暮らせる農山村集落環境の創出

エ 目標に沿った地域づくりの方針

(ア) 自然の豊かさを活かした地域の魅力向上

- a 良好な自然環境を活用し、観光や環境学習、レクリエーション等の場の確保に努めます。
- b 地域住民や地域コミュニティ組織等と連携して、整然とした農村景観、山間部の美しい田園景観の維持保全を図り、地域の魅力向上に繋がります。
- c オオサンショウウオなど希少な動物の生息生育環境を確保するため、自然と調和した水辺環境の保全創出を図ります。
- d 多様な世代の居住による地域コミュニティの維持を図るため、地域環境の良さをPRしながら、市営住宅や空き家を活用した定住対策を官民一体となって取り組むとともに、小谷地区・相田地区の宅地分譲販売等を継続的に推進します。

(イ) 市民生活を支える公共交通の維持と利用促進

- a 各種都市機能が集積する出合周辺では、日常購買、文化、行政、福祉機能等の都市機能を維持することで、地域拠点にふさわしい生活環境を形成するとともに、中心拠点等との公共交通アクセスの向上を図ります。
- b 地域住民や地域コミュニティ組織との連携により、公共交通の利用促進を進めるとともに、利便性の高い公共交通のあり方を検討します。
- c 中心地域へのアクセスや他地域との連携を強化するため、国道426号や国道482号等の幹線道路の機能向上に努めます。

(ウ) 歴史、伝統を活かした地域の活性化

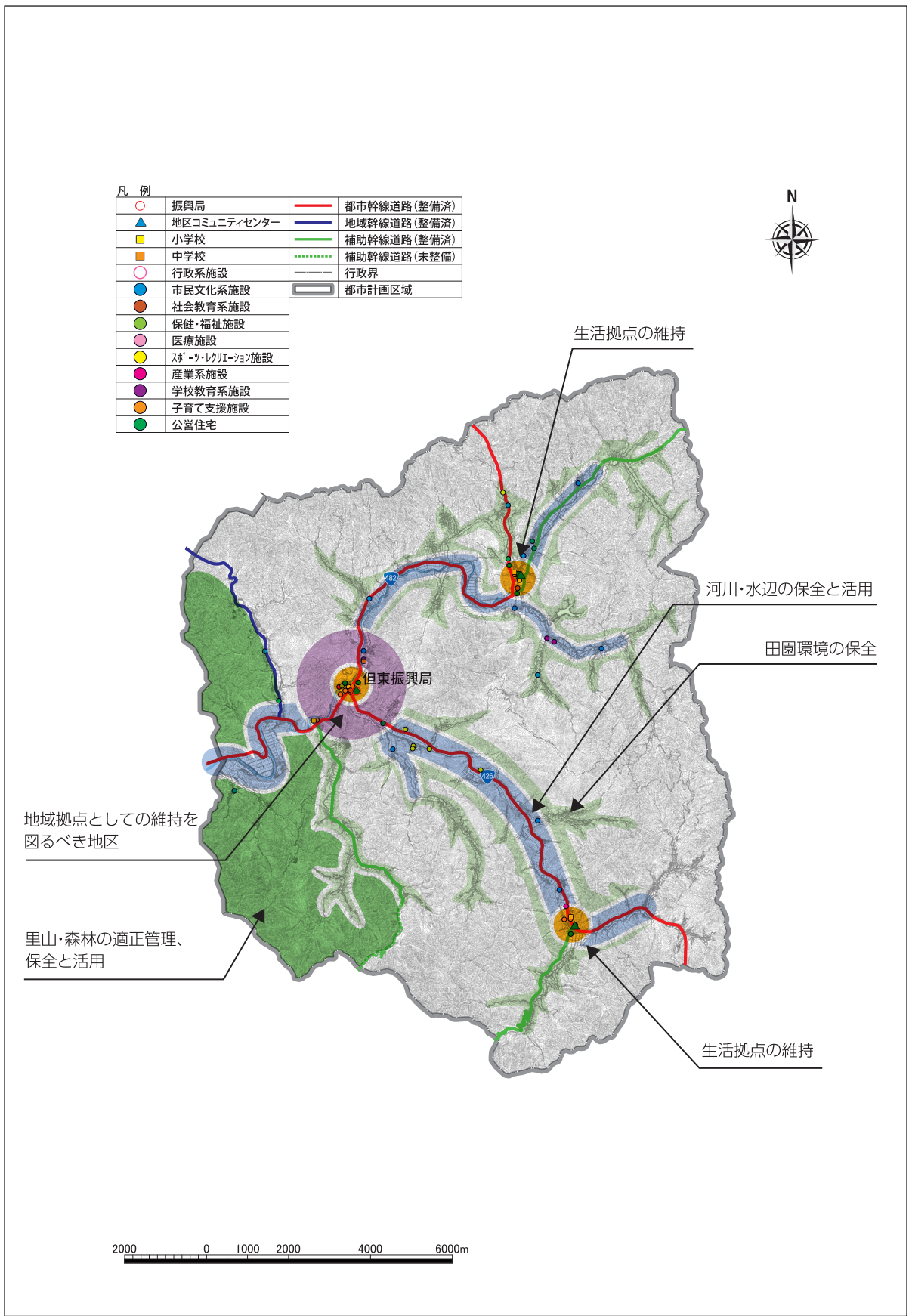
- a 各種集客施設や農家民宿、地域の伝統的な行事等の地域資源を活用し、地域住民や地域コミュニティ組織等とも連携しながら、各種交流事業、交流体験型のグリーンツーリズムの推進に取り組めます。

- b ドウダンツツジやチューリップ等の自然資源、博物館、記念館等の歴史的・文化的資源を活用した地域の活性化に取り組みます。
- c 地域独自の歴史文化を活かした取組みを維持します。

(エ)安全で安心して暮らせる農山村集落環境の創出

- a 農山村集落では、豊かな農地や森林と一体となった快適な居住環境の維持向上を図ります。
- b 増えつつある空き家や空き地、耕作放棄地については、所有者等の利用意向を調査し、利活用のあり方を検討します。
- c 多様な主体の参画と協働のもと、里山整備等を進め、土砂災害の防止や獣害対策、水源涵養等の森林の公益的機能の回復、維持に努めます。





図表5-7. 但東地域まちづくり構想図